



PROFILE

生方 ななえ(うぶかた ななえ)

群馬県出身。学芸学部英語英文学科卒業。在学中に世界規模で行われるモデルコンテストの日本大会で準優勝し19歳でデビュー。数々のファッション誌や国内外の有名ブランドコレクションでの活躍を経て2009年1月号より女性誌「Grazia(グラツィア)」(講談社)の表紙モデルに。近年はモデルの域にとどまらず、テレビ、ラジオ、CM出演など多方面で活躍中。趣味は読書や映画鑑賞、ギャラリー巡りなど。

撮影・取材場所 / 株式会社テンカラット(東京・広尾)



針 羅

モデル・タレント

生方 ななえさん

学芸学部英語英文学科 '02年卒

一人の表現者として  
人の心に響く存在でいたい

長身を生かしてモデルになろうと決めたのは小学生の頃。現在はモデルとしての枠を超え幅広く活躍中の生方さんに、大学時代の経験や仕事への情熱についてうかがいました。



表紙モデルを務める女性誌「Grazia」

私のファッションブランド「レオナルド」のランウェイ

インタビュー

外園 真衣(現代社会学部社会システム学科3年)

プレッシャーが大きいほど、楽しみも大きい

外園 ● 第一線で活躍の方がOGだったなんて本当に驚きで、緊張しています。まず、モデルとなられたきっかけを教えてください。

生方 ● この頃は背が高いことが悩みの九十パーセントといえるほどコンプレックスでした。いつも目立たないように背を丸めて歩いてたくらいです。でも、テレビやファッション誌を見て、逆にその長身(現在は百七十八センチ)を生かして活躍できるモデルになりたいと次第に思うようになりました。プロのモデルとしてデビューしたのは同志社女子大学に在学中の時です。

生方 ● 雑誌の仕事はあったのですが、もともとファッションショーに憧れてこの世界に入ったのに、オーディションにはなかなか受からず、三年ほど落ち続けていました。自分には向いていないのかなと悩みもしましたけど、とにかく毎日、家の鏡の前で床がボコボコになるまで歩く練習をしていましたね。転機が訪れたのは、ある有名ブランドのオーディションに受かってから。ショーで全国をまわるうちに自分なりのウォーキングが掴めるようになったのか、それからはおもしろいように受かるようになったんです。

外園 ● ひとつのショーをきつかけに?

生方 ● 容姿的には何も変わっていないし、私自身、ショーモデルの中では身長も体型も標準なんです。何が変わったのかといえば、恐らく積み重ねてきた自信や本気度がショーで表現できるようになったのだと思います。



外園 ● 現在はどうのお仕事をされていますか?

生方 ● 二〇〇九年から「グラツィア」という雑誌の表紙モデルを専属でやらせていただいています。あとはファッションショーやコマーシャル、テレビ、ラジオの出演など。

外園 ● 仕事で大変なのはどのようなことですか?

生方 ● モデルとして表に出るのは私ですが、その裏ではヘアメイクやカメラマンなど、多くのプロの方が「良いものをつくりたい」という一心で集まっています。正解というものはないし、自分の代わりがない仕事ですので、プレッシャーも大きいですね。でも、プレッシャーが大きいほど、楽しみもやりがいも大きいんです。

外園 ● 凄いですね。普通なら萎縮してしまいそうですが、

生方 ● 反省はしても後悔はしたくないので、仕事の規模にかかわらず何事にも全力で取り組むようにしています。

美の秘訣は心身ともに健康であること

外園 ● 同じ女性として一番気になることですが、体型維持のために気をつけておられることは?

生方 ● 過度な気遣いはしていませんが、心身ともに健康であることが何より大切だと思います。とにかくよく食べてよく寝ます。やっぱり食べたいじゃないですか。きなくないので。

外園 ● 美容法や食生活など美肌の秘訣は?

生方 ● 睡眠に勝る美容法はないですね。休日には十時間以上寝ることもあります(笑)。あとは半身浴もおすすめです。食生活では、母が群馬から新鮮な野菜を送ってくれるので、温野菜やスープにしてたくさん食べるようにしています。

外園 ● 優しいお母様ですね。

生方 ● 優しいだけでなく、懐が深く、とてもポジティブ。そんな母をいつも尊敬しています。



インタビューを終えて一言

外見だけでなく、内面を磨くことが人として輝く秘訣だと感じました。私も将来に向けて、自分を磨いていきたいと思っています。

外園 真衣

今につながる大学時代

外園 ● 群馬県から京都の同志社女子大学へ進学された理由は?

生方 ● 中学の修学旅行で京都に来た際、直感で「ここで大学生活を送りたい」と(笑)。今思うと冒険でした。でも、高校も同志社とゆかりのある学校でしたし、縁があったのかな。

外園 ● どのような学生生活でしたか?

生方 ● 二年次までは寮(めぐみ寮)で生活していました。はじめて親元を離れたので不安でしたが、寮生活はとても心強かったです。それに全国各地から学生が集まっているので人との出会いがゆたかでした。大学時代に出会った友人たちには今も支えられています。

外園 ● 印象に残っている授業や先生は?

生方 ● お世話になったのはゼミの森田明春先生です。イギリスの作家グレアムグリーンなどの世界を通し、アンソロイリッシュについて研究しました。

外園 ● 学業と仕事の両立は大変ではなかったですか?

生方 ● 当時、所属していたモデル事務所からは大学を辞める道も勧められましたが、悩んだ末、学業を優先することに決めました。もし、あのとき大学を辞めていたら、あきらめ癖がついていたかもしれません。大学生活を通じきちんと自分と向きあい、最後までやり遂げる力を学べたことは現在にもつながっていると思います。

外園 ● 今後の目標を聞かせてください。

生方 ● 一人の表現者として人の心に響く、人の心を動かす、そんな存在になればうれしいですね。人との出会いを大切に、今まで以上に活躍の場も広げていけたらと思っています。

外園 ● 最後に読者へメッセージをお願いします。

生方 ● 大学時代は将来について考える貴重な時間。悩む時間も決して無駄にはなりません。どんな道も必ず将来の道につながると思うので、二つ二つ目の前のことを大切にしてほしいと思います。

外園 ● ありがとうございます。